

大通公園を望む窓辺から

パートナーの資質

常任理事 藤井 美穂

今日は一人娘の孫のハーフバースデーだそうです。職場の院内保育園に子どもを預けながらフルタイムの忙しい仕事を続けている娘から、時々電話がかかってくる。夜、帰りが遅いので朝5時半起きて朝食を作りながら子どもを朝風呂に入れ、7時には3人で出勤という戦場の毎日の中で、昨日は親子3人でハーフバースデーのお祝いご飯をしてきたそう。子どもが発熱すれば、病児ベビーシッターをお願いしながらパパが仕事を休むこともあるそうです。

内視鏡の手術時にスコピストとして一緒に手術の手洗いをしてくれる若いクリニカルエンジニアと、手術の佳境場面が終わりカメラを抜いて小切開創縫合に差しかかると、「お子さん可愛くなりましたか？」の合い言葉で、彼の近況を聞きながらの優しい時間が始まります。若いパパである彼は「ゴロンゴロンと寝返りが…」「ハーフバースデーで…」とか楽しそうに話します。当院産婦人科の右腕であるS医師とも悪性腫瘍の長い手術が終わりになってくると、「疲れていない？週末はどうしていたの？」と話し始めます。「動物園に」「プールに」と話す彼は、時に一人息子の保育園お迎えで早めに帰り、夕方坊やを外来パソコンで遊ばせながら残った仕事の整理をします。彼の妻は同じく産婦人科の臨床医で、大学でサブスペシャリティの専門医を取得するために頑張っているのです。

私の夫は朝のコーヒーと味噌汁作りを担当、時に高齢の母との留守番をこなしていますし、まわりの男性陣はしっかり仕事をしながら、当然のこのようにマイライフの中で父親の役割を楽しく果たしているように見えます。

日本医師会男女共同参画委員会では、子育て世代の男性医師の意識調査をする予定ですが、彼らが育児にも参画したいと考えていることを上司に理解してもらい、時代が要求する職場を作ることに尽力していただきたいとのメッセージも盛り込まれているのです。家庭生活の満足度がいい仕事に反映される好循環を目指したいと考えているところです。

参議院選挙を終わって

理事 沖 一郎

第23回の参議院選挙が終わり、結果は今回の候補 羽生田たかし日本医師会副会長が全国得票数249,818票を獲得して自民党第6位の得票で当選しました。

日医ニュースによると8時過ぎに当選確実が報じられると、羽生田氏が「全国を回るとこれからの医療がどうなるのか心配していることが伝わってきた。明日からは国会議員として日本の医療のためにしっかりと尽くしたい」と抱負を述べ、横倉会長は「全国の医師会と病院団体が一つになり、すべての人にやさしい医療の訴えが国民の皆さまの理解を得られた。今から医療に関する大変な問題が次々に出てくるが、医療界から羽生田氏を国会に送ることができたので医療界全体で対応することができる」と語ったと伝えています。

今回の北海道の得票は5,222票で、前回の武見候補8,016票、西島候補2,926票と比べてどうでしょうか。得票率や時代の背景は変わっていても組織内候補の得票としては非常に物足りないものでした。私の胆振管内は275票、苫小牧市156票、白老町1票、厚真町1票、安平町0票、鶴川町1票と、管内の医師会員数や医師連盟会員数に比べて目まいのする数字でした。

私自身も衆議院選挙や市長選挙の選対本部長としていろいろな経験をしてきたつもりですが、今回の日本医師会副会長を組織内候補として戦う選挙は、管内の会員やその関係者に理解していただきある程度の結果が得られるものと思っておりましたので、当選の喜びよりも票数が管内で伸びないショックの方が大きかったです。

前々回、前回、今回の選挙とも医師連盟役員一同、事務方と一丸となって頑張った結果ですが、日頃から医師会会員、医師連盟会員の皆さまにどのように働きかけていくか、重い宿題をもらったようです。

羽生田先生、武見先生には、国会だけでなくこれから本当に全国を回り会員の力が一つになるように働きかけてほしいものです。

